

HP OMi Management Pack for SAP HANA

ソフトウェアバージョン: 1.00

HP Operations Manager i (Linux および Windows® オペレーティング システム)

インストールガイド

ドキュメントリリース日: 2015 年 1 月

ソフトウェアリリース日: 2014 年 5 月



ご注意

保証

HP 製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載は、追加保証を提供するものではありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HPはいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

権利の制限

機密性のあるコンピューターソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HPからの有効な使用許諾が必要です。商用コンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、FAR 12.211 および 12.212 の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

著作権について

© Copyright 2014 - 2015 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標について

Adobe® は、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の登録商標です。

Microsoft® および Windows® は、Microsoft グループの米国における登録商標です。

UNIX® は、The Open Group の登録商標です。

Oracle と Java は、Oracle Corporation およびその関連会社の登録商標です。

ドキュメントの更新情報

このマニュアルの表紙には、以下の識別情報が記載されています。

- ソフトウェアバージョンの番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメントリリース日は、ドキュメントが更新されるたびに更新されます。
- ソフトウェアリリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

更新状況、およびご使用のドキュメントが最新版かどうかは、次のサイトで確認できます。<https://softwaresupport.hp.com/group/softwaresupport/search-result?keyword=>

このサイトを利用するには、HP Passport のアカウントが必要です。アカウントをお持ちでない場合は、HP Passport のサインイン ページで **[アカウントを作成してください]** ボタンをクリックしてください。

サポート

次の HP ソフトウェアサポートの Web サイトを参照してください。<https://softwaresupport.hp.com>

このサイトでは、HP のお客様窓口のほか、HP ソフトウェアが提供する製品、サービス、およびサポートに関する詳細情報をご覧いただけます。

HP ソフトウェア サポート オンラインではセルフソルブ機能を提供しています。お客様のビジネスを管理するのに必要な対話型の技術サポートツールに、素早く効率的にアクセスできます。HP ソフトウェアサポートの Web サイトでは、次のようなことができます。

- 関心のあるナレッジドキュメントの検索
- サポートケースの登録とエンハンスメント要求のトラッキング
- ソフトウェアパッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HP サポート窓口の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の閲覧
- 他のソフトウェアカスタマーとの意見交換
- ソフトウェアトレーニングの検索と登録

一部のサポートを除き、サポートのご利用には、HP Passport ユーザーとしてご登録の上、サインインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。HP Passport ID を登録するには、<https://softwaresupport.hp.com> にアクセスして **[Register]** をクリックしてください。

アクセスレベルの詳細については、次の Web サイトをご覧ください。<https://softwaresupport.hp.com/web/softwaresupport/access-levels>

HP Software Solutions & Integrations and Best Practices

HP Software Solutions Now (<https://h20230.www2.hp.com/sc/solutions/index.jsp>) を参照してください。このサイトでは、HP ソフトウェアのカタログに記載された製品の説明を確認したり、情報を交換したり、ビジネス ニーズを解決 することができます。

Cross Portfolio Best Practices Library (<https://hpln.hp.com/group/best-practices-hpsw>) からは、さまざまな ベスト プラクティス文書 や資料にアクセスすることができます。

目次

第1章: はじめに	7
このマニュアルで使われている略語	7
関連ドキュメント	8
ライセンス	8
第2章: OMi MP for SAP HANA のインストール	9
インストールメディア	9
インストールの前提条件	10
ハードウェア要件	10
ソフトウェア要件	10
BSM サーバでのソフトウェア要件	10
OMi サーバでのソフトウェア要件	11
インストール時のチェックリスト	11
BSM サーバ用チェックリスト	11
OMi サーバ用チェックリスト	12
Monitoring Automation 9.23 の追加のソフトウェア更新のインストール	13
分散 BSM 環境での追加のソフトウェア更新のインストール	13
BSM DPS での追加のソフトウェア更新のインストール	13
BSM GWS での追加のソフトウェア更新のインストール	15
一般的な BSM 環境での追加のソフトウェア更新のインストール	16
BSM または OMi での OMi MP for SAP HANA バージョン 1.00 のインストール	18
Linux BSM または OMi サーバの場合	18
Windows BSM または OMi サーバの場合	20
ライセンスの適用	21
OMi MP for SAP HANA のインストールの確認	22
第3章: 作業の開始	24
BSM コンソールでの作業の開始	24
タスク 1: BSM コンソールへのリモート管理対象ノードの追加	24
タスク 2: HANA サービス検出アスペクトのデプロイ	25
タスク 3: 検出の確認	26
タスク 4: HANA 管理テンプレートまたは HANA アスペクトのデプロイ	27
タスク 4a: HANA 管理テンプレートのデプロイ	27
タスク 4b: HANA アスペクトのデプロイ	28
OMi コンソールでの作業の開始	29
タスク 1: OMi コンソールへのリモート管理対象ノードの追加	29
タスク 2: HANA サービス検出アスペクトのデプロイ	30

タスク 3: 検出の確認	32
タスク 4: HANA 管理テンプレートまたは HANA アスペクトのデプロイ	32
タスク 4a: HANA 管理テンプレートのデプロイ	32
タスク 4b: HANA アスペクトのデプロイ	33
ドキュメントのフィードバックを送信	35

第1章: はじめに

HP OMi Management Pack for SAP HANA (OMi MP for SAP HANA) は HP Operations Manager i (OMi) とともに動作し、SAP HANA 環境の監視を可能にします。OMi MP for SAP HANA では、環境内で稼働する SAP HANA データベースの動作状況とステータスを監視する目的で、次のコンポーネントが提供されています。

注: コンポーネントの詳細は、OMi MP for SAP HANA のオンライン ヘルプまたはオンライン ヘルプの PDF 版を参照してください。

- HANA 管理テンプレート
- HANA アスペクトおよびポリシーテンプレート
- パラメータ
- ランタイム サービス モデル (RTSM) のビュー
- 状況インジケータ (HI)
- ツール
- グラフ

このマニュアルで使われている略語

名称	説明
BSM	Business Service Management
OMi	HP Operations Manager i
RTSM	ランタイム サービス モデル
MPDVD	OMi Management Pack for SAP HANA DVD
BSM DPS	BSM データ処理サーバ
BSM GWS	BSM ゲートウェイサーバ
OMi MP	HP OMi Management Pack
OMi MP for SAP HANA	HP OMi Management Pack for SAP HANA

関連ドキュメント

BSM および Monitoring Automation についての詳細は、BSM マニュアルを参照してください。

OMi についての詳細は、次のドキュメントを参照してください。

OMi MP for SAP HANA の詳細は、次のドキュメントを参照してください。

- リリースノート
- オンラインヘルプの PDF 版

ライセンス

OMi MP のライセンスは、25 ライセンスがパッケージで提供されます。アプリケーションのタイプに関わらず、OS インスタンスごとに 1 ライセンスを使用します。たとえば、ライセンスパックには、OMi MP for Microsoft SQL Server のライセンス 5 個、OMi MP for Oracle Database のライセンス 10 個を、サポートされているその他のアプリケーションと組み合わせて含めることができます。

Entitlement Order Number (EON) のライセンスを取得するには、www.hp.com/software/licensing にアクセスし、HP Passport の資格情報でログインします。

ライセンスの適用の詳細は、「[ライセンスの適用](#)」を参照してください。

第2章: OMi MP for SAP HANA のインストール



この項では、BSM サーバ(Linux and Windows) および OMi サーバ(Linux and Windows) での OMi MP for SAP HANA のインストールについて説明します。

インストールメディア

この項では、OMi MP for SAP HANA のインストールメディアについて説明します。OMi MP for SAP HANA は OMi MP for SAP HANA DVD (MPDVD) および電子メディアに収録されています。MPDVD および電子メディアは、英語および英語以外のロケール環境に対応しています。ロケール要件に基づき、適切なインストールメディアを使用できます。

OMi MP for SAP HANA DVD および電子メディアには、ソフトウェアおよび製品 マニュアルが収録されています。分散環境では、すべての BSM データ処理サーバ(BSM DPS) とゲートウェイサーバ(BSM GWS) にインストールする必要があります。

次の表に、MPDVD と電子メディアに収録されているドキュメントの情報を記します。

ドキュメント	場所	目的
オンライン ヘルプ	BSM コンソールの [ヘルプ] メニューで利用できます。 BSM コンソールから、 [ヘルプ] > [BSM ヘルプ] > [Application Administration] > [Operations Management] > [OMi Management Pack for SAP HANA] に移動します。 OMi コンソールの  メニューから使用可能。 OMi コンソールから、  >[全般的なヘルプ] > [管理ガイド] > [管理パック] > [OMi Management Pack for SAP HANA] に移動します。	次の情報を提供します。 <ul style="list-style-type: none"> 管理テンプレートの使用 アспектおよびポリシーテンプレートの使用 インジケータ (HI、ETI) の使用
インストールガイド	<MPDVD>\DOCUMENTATION\en	
オンライン ヘルプの PDF 版	<MPDVD>\DOCUMENTATION\en	
リリースノート	<MPDVD>\DOCUMENTATION\en	次の情報を提供します。 <ul style="list-style-type: none"> 主要な機能 インストールについて

インストールの前提条件

以下の項では、Linux および Windows BSM サーバでの OMi MP for SAP HANA のインストールに関するハードウェアおよびソフトウェアの前提条件を一覧表示します。また、SAP HANA の監視を行うための前提条件についても説明します。

ハードウェア要件

特定のハードウェア要件については、『BSM インストールガイド』を参照してください。

ソフトウェア要件

OMi MP for SAP HANA を BSM サーバ (Windows または Linux) にインストールするためのソフトウェア要件の詳細は、「[BSM サーバでのソフトウェア要件](#)」を参照してください。

OMi MP for SAP HANA を OMi サーバ (Windows または Linux) にインストールするためのソフトウェア要件の詳細は、「[OMi サーバでのソフトウェア要件](#)」を参照してください。

BSM サーバでのソフトウェア要件

OMi MP for SAP HANA をインストールする前に、BSM サーバへ以下のコンポーネントをインストールし、構成する必要があります。

コンポーネント	バージョン
BSM	9.23 以降*
HP Operations Manager i	9.23 以降*
HP Monitoring Automation	9.23 以降*

* サポートされている最新バージョンについては、サポート マトリックスを参照してください。

注: 大規模環境では、BSM 9.24 の使用をお勧めします。

管理対象ノード

コンポーネント	バージョン
Operations Agent	11.13 以降*
Java	1.6 以降

注: 64 ビットの HP Operations Agent では 64 ビットの JRE を、32 ビットの HP Operations Agent では 32 ビットの JRE を使用する必要があります。

* サポートされている最新バージョンについては、サポート マトリックスを参照してください。

OMi サーバでのソフトウェア要件

OMi MP for SAP HANA をインストールする前に、OMi サーバへ以下のコンポーネントをインストールし、構成する必要があります。

コンポーネント	バージョン
HP Operations Manager i	9.23 以降*

* サポートされている最新バージョンについては、サポート マトリックスを参照してください。

注: 大規模環境では、BSM 9.24 の使用をお勧めします。

管理ノード

コンポーネント	バージョン
Operations Agent	11.13 以降*
Java	1.6 以降

注: 64 ビットの HP Operations Agent では 64 ビットの JRE を、32 ビットの HP Operations Agent では 32 ビットの JRE を使用する必要があります。

* サポートされている最新バージョンについては、サポート マトリックスを参照してください。

インストール時のチェックリスト

OMi MP for SAP HANA を BSM サーバにインストールする場合は、「[BSM サーバ用チェックリスト](#)」を参照してください。

OMi MP for SAP HANA を OMi サーバにインストールする場合は、「[OMi サーバ用チェックリスト](#)」を参照してください。

BSM サーバ用チェックリスト

OMi MP for SAP HANA のインストールでは、次の表にまとめた手順を指定の順序で事前に行っておく必要があります。

タスク	参照先
BSM のインストールに必要な前提条件のチェック	『BSM インストールガイド』の「一般的な前提条件」を参照してください。

タスク	参照先
BSM バージョン 9.20 および BSM 9.23 以上の Service Pack のインストール	『BSM インストールガイド』の「BSM 9.20 のインストール」と「最新の BSM 9.2x マイナー マイナーリリースとパッチのインストール」を参照してください。
Monitoring Automation バージョン 9.23 以降のインストール	『Monitoring Automation for HP Operations Manager i インストールガイド』の「インストールの前提条件」と「BSM サーバーでの Monitoring Automation のインストールと構成」の章を参照してください。
Monitoring Automation のインストールの確認	『Monitoring Automation for HP Operations Manager i インストールガイド』の「Monitoring Automation のインストールの確認と操作」の章を参照してください。
Monitoring Automation 9.23 の追加のソフトウェア更新のインストール	「Monitoring Automation 9.23 の追加のソフトウェア更新のインストール」 の項を参照してください。
OMi MP for SAP HANA 1.00 のインストール	「BSM または OMi での OMi MP for SAP HANA バージョン 1.00 のインストール」 の項を参照してください。
ライセンスの適用	「ライセンスの適用」 の項を参照してください。

管理対象ノード

タスク	参照先
HP Operations Agent 11.13 のインストール	『HP Operations Agent および HP Operations Smart Plug-ins for Infrastructure インストールガイド』の「Installing the HP Operations agent 11.13 (HP Operations Agent 11.13 のインストール)」を参照してください。

OMi サーバ用 チェックリスト

OMi MP for SAP HANA のインストールでは、次の表にまとめた手順を指定の順序で事前に行っておく必要があります。

タスク	参照先
OMi MP for SAP HANA 1.00 のインストール	「BSM または OMi での OMi MP for SAP HANA バージョン 1.00 のインストール」 の項を参照してください。
ライセンスの適用	「ライセンスの適用」 の項を参照してください。

管理対象ノード

タスク	参照先
HP Operations Agent 11.13 のインストール	『HP Operations Agent および HP Operations Smart Plug-ins for Infrastructure インストールガイド』の「Installing the HP Operations agent 11.13 (HP Operations Agent 11.13 のインストール)」を参照してください。

Monitoring Automation 9.23 の追加のソフトウェア更新のインストール

注: BSM 9.23 に限り、Monitoring Automation 9.23 の追加のソフトウェア更新をインストールする必要があります。

OMi MP for SAP HANA をインストールする前に、Monitoring Automation 9.23 の追加のソフトウェア更新をインストールする必要があります。Monitoring Automation 9.24 以降のバージョンを使用している場合、この追加のソフトウェア更新のインストールは不要です。Monitoring Automation 9.23 の追加のソフトウェア更新は MPDVD に収録されています。

分散 BSM 環境での追加のソフトウェア更新のインストール

この項では、分散 BSM 環境でのソフトウェア更新のインストールの詳細について説明します。分散 BSM 環境では、BSM DPS と BSM GWS を異なるシステムで使用できます。追加のソフトウェア更新は、BSM DPS と BSM GWS の両方にインストールする必要があります。

分散 BSM 環境ではない場合、次の項をスキップして「[一般的な BSM 環境での追加のソフトウェア更新のインストール](#)」を参照してください。

BSM DPS での追加のソフトウェア更新のインストール

分散 BSM 環境で動作している BSM DPS で追加のソフトウェア更新をインストールするには、次の手順を実行します。

1. 次のコマンドを実行して、現在の opr-config-content-server.war ファイルのバージョンをチェックします。

Linux の場合:

```
cd /opt/HP/BSM/opr/webapps
/opt/HP/BSM/opr/support/what.sh ./opr-config-content-server.war
```

Windows の場合:

BSM がインストールされているドライブに移動します。

```
cd /d %TOPAZ_HOME%\opr\webapps
```

```
cscript %TOPAZ_HOME%\opr\support\what.vbs opr-config-content-server.war
```

注: バージョン番号が 09.23.174 より下である場合、次の手順に進んでください。バージョン番号が 09.23.174 以上である場合は、現在の BSM インストールに必要なソフトウェア更新が既に含まれているため、この項の残りのステップは実行不要です。

2. 次のコマンドを実行して、BSM DPS で実行中の BSM サービスを停止します。

Linux の場合:

```
/opt/HP/BSM/scripts/run_hpbsm stop
```

Windows の場合:

```
%TOPAZ_HOME%\bin\SupervisorStop.bat
```

3. 次のフォルダにある既存の opr-config-content-server.war ファイルをバックアップします。

Linux の場合:

```
/opt/HPBSM/opr/webapps
```

Windows の場合:

```
%TOPAZ_HOME%\opr\webapps
```

opr-config-content-server.war ファイルを別のフォルダにバックアップする必要があります。

4. HPOprMA_update.zip を一時フォルダに展開し、opr-config-content-server.war を次のフォルダにコピーします。

Linux の場合:

```
/opt/HPBSM/opr/webapps
```

Windows の場合:

```
%TOPAZ_HOME%\opr\webapps
```

5. 次のコマンドを実行して、ソフトウェア更新から新しい war ファイルをデプロイします。

Linux の場合:

```
/opt/HP/BSM/opr/bin/oprcfg-configuration.sh -setup omi -noGW
```

Windows の場合:

```
cscript %TOPAZ_HOME%\opr\bin\oprcfg-configuration.vbs -setup omi -noGW
```

6. 次のコマンドを実行して、BSM サービスを開始します。

Linux の場合:

```
/opt/HP/BSM/scripts/run_hpbsm start
```

Windows の場合:

```
%TOPAZ_HOME%\bin\SupervisorStart.bat
```

BSM GWS での追加のソフトウェア更新のインストール

分散 BSM 環境で動作している BSM GWS で追加のソフトウェア更新をインストールするには、次の手順を実行します。

1. 次のコマンドを実行して、現在の opr-config-server.war ファイルのバージョンをチェックします。

Linux の場合:

```
cd /opt/HP/BSM/opr/webapps
```

```
/opt/HP/BSM/opr/support/what.sh ./opr-config-server.war
```

Windows の場合:

BSM がインストールされているドライブに移動します。

```
cd /d %TOPAZ_HOME%\opr\webapps
```

```
cscript %TOPAZ_HOME%\opr\support\what.vbs opr-config-server.war
```

注: バージョン番号が 09.23.174 より下である場合、次の手順に進んでください。バージョン番号が 09.23.174 以上である場合は、現在の BSM インストールに必要なソフトウェア更新が既に含まれているため、この項の残りのステップは実行不要です。

2. 次のコマンドを実行して、BSM GWS で実行中の BSM サービスを停止します。

Linux の場合:

```
/opt/HP/BSM/scripts/run_hpbsm stop
```

Windows の場合:

```
%TOPAZ_HOME%\bin\SupervisorStop.bat
```

3. 次のフォルダにある既存の `opr-config-server.war` ファイルをバックアップします。

Linux の場合:

```
/opt/HPBSM/opr/webapps
```

Windows の場合:

```
%TOPAZ_HOME%\opr\webapps
```

`opr-config-server.war` ファイルを別のフォルダにバックアップする必要があります。

4. `HPoprMA_update.zip` を一時フォルダに展開し、`opr-config-server.war` を次のフォルダにコピーします。

Linux の場合:

```
/opt/HPBSM/opr/webapps
```

Windows の場合:

```
%TOPAZ_HOME%\opr\webapps
```

5. 次のコマンドを実行して、ソフトウェア更新から新しい `war` ファイルをデプロイします。

Linux の場合:

```
/opt/HP/BSM/opr/bin/oprcfg-configuration.sh -setup omi
```

Windows の場合:

```
cscript %TOPAZ_HOME%\opr\bin\oprcfg-configuration.vbs -setup omi
```

6. 次のコマンドを実行して、BSM サービスを開始します。

Linux の場合:

```
/opt/HP/BSM/scripts/run_hpbsm start
```

Windows の場合:

```
%TOPAZ_HOME%\bin\SupervisorStart.bat
```

一般的な BSM 環境での追加のソフトウェア更新のインストール

一般的な BSM 環境では、BSM DPS と BSM GWS を同じシステムで使用できます。一般的な BSM 環境で追加のソフトウェア更新をインストールするには、次の手順を実行します。

1. 次のコマンドを実行して、現在の opr-config-server.war のバージョンをチェックします。

Linux の場合:

```
cd /opt/HP/BSM/opr/webapps
/opt/HP/BSM/opr/support/what.sh ./opr-config-server.war
```

Windows の場合:

BSM がインストールされているドライブに移動します。

```
cd /d %TOPAZ_HOME%\opr\webapps
cscript %TOPAZ_HOME%\opr\support\what.vbs opr-config-server.war
```

注: バージョン番号が 09.23.174 より下である場合、次の手順に進んでください。バージョン番号が 09.23.174 以上である場合は、現在の BSM インストールに必要なソフトウェア更新が既に含まれているため、この項の残りのステップは実行不要です。

2. 次のコマンドを実行して、BSM サーバで実行中の BSM サービスを停止します。

Linux の場合:

```
/opt/HP/BSM/scripts/run_hpbsm stop
```

Windows の場合:

```
%TOPAZ_HOME%\bin\SupervisorStop.bat
```

3. 次のフォルダにある既存の opr-config-server.war ファイルをバックアップします。

Linux の場合:

```
/opt/HPBSM/opr/webapps
```

Windows の場合:

```
%TOPAZ_HOME%\opr\webapps
```

opr-config-server.war ファイルを別のフォルダにバックアップする必要があります。

4. HPOprMA_update.zip を一時フォルダに展開し、opr-config-server.war を次のフォルダにコピーします。

Linux の場合:

```
/opt/HPBSM/opr/webapps
```

Windows の場合:

```
%TOPAZ_HOME%\opr\webapps
```

5. 次のコマンドを実行して、ソフトウェア更新から新しい war ファイルをデプロイします。

Linux の場合:

```
/opt/HP/BSM/opr/bin/oprcfg-configuration.sh -setup omi
```

Windows の場合:

```
cscript %TOPAZ_HOME%\opr\bin\oprcfg-configuration.vbs -setup omi
```

6. 次のコマンドを実行して、BSM サービスを開始します。

Linux の場合:

```
/opt/HP/BSM/scripts/run_hpbsm start
```

Windows の場合:

```
%TOPAZ_HOME%\bin\SupervisorStart.bat
```

BSM または OMi での OMi MP for SAP HANA バージョン 1.00 のインストール

OMi MP for SAP HANA を BSM サーバ(Linux または Windows) または OMi サーバ(Linux または Windows) にインストールするには、MPDVD を使用します。この項では、OMi MP for SAP HANA を BSM サーバまたは OMi サーバにインストールする手順について説明します。

注: BSM 分散環境では、OMi MP for SAP HANA がすべての BSM サーバ(BSM DPS および BSM GWS) にインストールされている必要があります。インストールを進める前に、Monitoring Automation が実行中であることを確認する必要があります。ステータスを確認するには、BSM コンソールにログオンし、[管理] > [セットアップと保守] > [サーバ デプロイメント] に移動して、Monitoring Automation が有効かどうかを確認します。

Linux BSM または OMi サーバの場合

OMi MP for SAP HANA を Linux BSM/OMi サーバにインストールするには、以下の手順を実行します。

1. root ユーザとしてログオンします。
2. コマンド `umask 022` を入力して、`umask` を設定します。

3. コマンド `mkdir /<mount_point>` を入力して、DVD または電子メディアをマウントするディレクトリを作成します。

例: `mkdir /dvdrom`

4. DVD をディスクドライブに挿入するか、電子メディアのインストールパッケージをコピーし、次のコマンドを使用してマウントします。

DVD の場合: `mount /dev/<dvdrom_drive_name> /<mount_point>`

電子メディアの場合: `mount -o loop <e-media> /<mount_point>`

5. ディレクトリを `/<mount_point>` に変更します。
6. 次のコマンドを実行します。

```
./mpinstall.sh -i [-h|help]
```

次の表を参照して、ロケールに応じたコマンドを実行します。

DVD	MP ロケールが BSM ロケールと同じ場合	MP ロケールが BSM ロケールと異なる場合
英語の DVD	<code>./mpinstall.sh -i</code>	<code>./mpinstall.sh -i</code>
英語以外の DVD	<code>./mpinstall.sh -i</code>	<code>./mpinstall.sh -i -locale <mplocale></code>

例: BSM が簡体中国語ロケールではない場合に、簡体中国語ロケールで OMi MP for SAP HANA をインストールするには、次のコマンドを指定します。

```
./mpinstall.sh -i -locale zh_CN
```

注: 次のコマンド オプションを使用できます。

```
mpinstall.sh -i [-locale <MP ロケール>] [-h|help]
```

`-i`: Management Pack をインストールします。

`-locale`: インストールするロケール専用の Management Pack。

`-h` | `-help`: ヘルプメッセージを表示します。

<MP ロケール> は次のように指定できます。

- `zh_CN`: 簡体中国語ロケール
- `ja`: 日本語ロケール

7. エンドユーザ使用許諾契約書 (EULA) に同意する場合は、**Yes** または **Y** と入力します。使用許諾契約書に同意しない場合は、**No** または **N** と入力します。

注: 使用許諾契約書 (EULA) に同意しない場合、OMi MP for SAP HANA はインストールされません。

インストールが完了すると、HP OMi Management Pack for SAP HANA のインストールが終了したことを示すメッセージが表示されます。

Windows BSM または OMi サーバの場合

OMi MP for SAP HANA を Windows BSM または OMi サーバにインストールするには、以下の手順を実行します。x

1. DVD をディスクドライブに挿入するか、電子メディアのインストールパッケージをコピーし、展開します。
2. コマンド プロンプトを開き、<DVD-ROM> または電子メディアのディレクトリに移動して、次のコマンドを実行します。

```
cscript /nologo mpinstall.vbs -i [-locale <mplocale>] [-h|-help]
```

次の表を参照して、ロケールに応じたコマンドを実行します。

DVD	MP ロケールが BSM ロケールと同じ場合	MP ロケールが BSM ロケールと異なる場合
英語の DVD	<code>cscript /nologo mpinstall.vbs -i</code>	<code>cscript /nologo mpinstall.vbs -i</code>
英語以外の DVD	<code>cscript /nologo mpinstall.vbs -i</code>	<code>cscript /nologo mpinstall.vbs -i -locale <MP のロケール></code>

例: BSM が簡体中国語ロケールではない場合に、簡体中国語ロケールで OMi MP for SAP HANA をインストールするには、次のコマンドを実行します。

```
cscript /nologo mpinstall.vbs -i -locale zh_CN
```

注: 次のコマンド オプションを使用できます。

```
cscript /nologo mpinstall.vbs -i [-locale <MP ロケール>] [-h|help]
```

`-i`: Management Pack をインストールします。

-locale: インストールするロケール専用の Management Pack。

-h|-help: ヘルプメッセージを表示します。

<MP ロケール> は次のように指定できます。

- zh_CN: 簡体中国語ロケール
- ja: 日本語ロケール

3. エンドユーザ使用許諾契約書 (EULA) に同意する場合は、**Yes** または **Y** と入力します。使用許諾契約書に同意しない場合は、**No** または **N** と入力します。

注: 使用許諾契約書 (EULA) に同意しない場合、OMi MP for SAP HANA はインストールされません。

インストールが完了すると、HP OMi Management Pack for SAP HANA のインストールが終了したことを示すメッセージが表示されます。

ライセンスの適用

この項では、ライセンスの更新とアクティブ化について説明します。

注: ライセンスの取得の詳細は、「[ライセンス](#)」を参照してください。


新しいライセンスでデプロイメントを更新し、ライセンスをアクティブ化するには、次の手順を実行します。

1. [ライセンス管理] に移動します。

BSM で [管理] > [プラットフォーム] > [セットアップと保守] > [ライセンス管理] をクリックします。

OMi では、[管理] > [セットアップと保守] > [ライセンス管理] をクリックします。

ライセンス管理では、名前、ライセンスのタイプ、期限切れまでの残り日数、有効期限、ライセンス数などの情報が表示されます。

2.  をクリックして [ライセンスの追加] ダイアログボックスを開き、使用する .dat ファイルを検索します。

注: .dat ファイルは www.hp.com/software/licensing からダウンロードできます。

注: インストール後のライセンスアクティブ化には遅延があります。ライセンスが自動的にアクティ

ブ化されない場合、ステップ3を実行する必要があります。

3. (オプション)ライセンスをアクティブ化するには、[ライセンス管理] ウィンドウの下にある [サーバデプロイメント] リンクをクリックします。

OMi MP for SAP HANA のインストールの確認

この項では、Linux および Windows BSM サーバでの OMi MP for SAP HANA のインストールの確認について説明します。

OMi MP for SAP HANA のインストールは、次の手順で確認できます。

- 以下の場所で BSM GWS、BSM DPS、および BSM の一般サーバのログファイルのエラーをチェックします。

Linux の場合:

```
/opt/HP/BSM/log/mpinstall.log
```

Windows の場合:

```
%TOPAZ_HOME%\log\mpinstall.log
```

- 次の場所をチェックします。

BSM では、[管理] > [オペレーション管理] > [セットアップ] > [コンテンツ パック] をクリックします。

[コンテンツ パック定義] ペインに、**OMi Management Pack for SAP HANA** が表示されている必要があります。

OMi では、[管理] > [セットアップと保守] > [コンテンツ パック] をクリックします。

[コンテンツ パック定義] ペインに、**OMi Management Pack for SAP HANA** が表示されている必要があります。

- BSM サーバにインストールされている OMi MP をリストするには、以下のコマンドを実行します。

Linux の場合:

```
/opt/HP/BSM/bin/ContentManager.sh -username <BSMusername> -password <BSMpwd> -l
```

Windows の場合:

```
%TOPAZ_HOME%\bin\ContentManager.bat -username <BSMusername> -password <BSMpwd> -l
```

注: ContentManager.bat または ContentManager.sh コマンドで、コンテンツパックの名前とバージョンがリスト表示されます。

注: 次の場所に、BSM GWS と BSM DPS の両方の OMi ログファイルがあります。

Linux の場合: /opt/HP/BSM/log/EJBContainer/opr-configserver.log

Windows の場合: %TOPAZ_HOME%\log\EJBContainer\opr-configserver.log

第3章: 作業の開始

ここでは、OMi MP for SAP HANA を使用して SAP HANA データベースを監視する手順を詳しく説明します。

BSM コンソールでの作業の開始の詳細については、「[BSM コンソールでの作業の開始](#)」を参照してください。

OMi コンソールでの作業の開始の詳細については、「[OMi コンソールでの作業の開始](#)」を参照してください。

BSM コンソールでの作業の開始

ここでは、OMi MP for SAP HANA を使用して SAP HANA データベースを監視する手順を詳しく説明します。


タスク 1: BSM コンソールへのリモート管理対象ノードの追加

注: OMi MP for SAP HANA では、リモート監視を通じて SAP HANA データベースを監視します。リモート管理対象ノードとは、SAP HANA データベースを監視するために構成と BSM への追加が必要な、HANA システムの外部のノードです。

監視を始める前に、BSM コンソールにリモート管理対象ノードを追加する必要があります。

1. [オペレーション管理の管理] から [モニタ対象ノード] マネージャを開きます。

[管理] > [オペレーション管理] > [セットアップ] > [モニタ対象ノード]

2. [ノード ビュー] ペインで [事前定義済みのノード フィルタ] > [モニタ対象ノード] をクリックし、 をクリックしてから、[Computer] > [Windows] または [UNIX] をクリックします。[モニタ対象ノードの新規作成] ダイアログ ボックスが表示されます。
3. ノードの [プライマリ DNS 名]、[IP アドレス]、[オペレーティングシステム]、[プロセッサアーキテクチャ] を指定し、[OK] をクリックします。

新しく作成されたノードは、ランタイム サービス モデル (RTSM) の構成アイテム (CI) インスタンスになります。

注: HP Operations Agent が稼働するリモート管理対象ノードは、OMi サーバに対して有効にしてから、証明書を付与する必要があります。

タスク 2: HANA サービス検出アスペクトのデプロイ



環境内の SAP HANA データベースを検出するには、次の手順に従ってリモート管理対象ノードに HANA サービス検出アスペクトをデプロイします。

1. 次の手順で [管理 テンプレート およびアスペクト] ペインを開きます。


[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [管理 テンプレート およびアスペクト]



2. [構成フォルダ] ペインで、次を選択します。

[構成フォルダ] > [データベース管理] > [SAP HANA] > [アスペクト]


3. [HANA アスペクト] フォルダでデプロイする **[HANA サービス検出]** アスペクトをクリックし、 をクリックします。[割り当てとデプロイ] ウィザードが開きます。
4. **[構成アイテム]** タブが開いたら、remote managed node CI をクリックして **[次へ]** をクリックし、**[必要なパラメータ]** に進みます。
5. **[必要なパラメータ]** タブで、必須パラメータを指定する必要があります。必須パラメータのデフォルト値を指定するには、次の手順を実行します。
 - a. リストの **[HANA システムに接続するための JDBC URL]** インスタンスパラメータを選択して、 をクリックします。[パラメータの編集: HANA システムに接続するための JDBC URL] ダイアログボックスが開きます。

たとえば、次の URL を指定できます。


```
jdbc:sap://hanavm1.ind.hp.com:31015;hanavm1:31015?reconnect=true&timeout=0
```
 - b. 値を指定して、**[OK]** をクリックします。
 - c. リストの **[HANA に接続するための HANA JDBC ドライバを含むディレクトリ]** パラメータを選択して、 をクリックします。[パラメータの編集: HANA システムに接続するためのユーザ名] ダイアログボックスが開きます。

たとえば、Windows のリモート管理対象ノードの ngdbc.jar を含むディレクトリを C:/HANA/driver と指定できます。
 - d. **[値]** を選択して値を指定し、**[OK]** をクリックします。
 - e. リストの **[HANA システムに接続するためのユーザ名]** パラメータを選択して、 をクリックします。[パラメータの編集: HANA システムに接続するためのユーザ名] ダイアログボックスが開きます。
 - f. **[値]** を選択して値を指定し、**[OK]** をクリックします。
 - g. リストの **[HANA システムに接続するためのパスワード]** パラメータを選択して、 をクリックします。

[パラメータの編集: HANA システムに接続するためのパスワード] ダイアログ ボックスが開きます。

- h. **[値]** を選択して値を指定し、**[OK]** をクリックします。
6. **[すべてのパラメータ]** タブで、**[HANA システムに接続するための JDBC URL]** パラメータを選択し  をクリックします。[インスタンス パラメータの編集: SAP HANA データベース SID] ウィンドウが開きます。

注: SSL 構成の場合、[暗号化] パラメータの値の指定が必要です。SSL 暗号化を有効にするには、値を true に設定する必要があります。また、SSL に関連する他のパラメータの値も指定が必要です。

7. [依存値] ペインで値を編集および変更するには、次の手順を実行します。
 - a. パラメータを選択し、 をクリックします。たとえば、JAVA インストール ディレクトリを選択できます。[パラメータの編集: JAVA インストール ディレクトリ] ウィンドウが開きます。
 - b. **[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。
 - c. **[OK]** をクリックします。
8. **[すべてのパラメータ]** タブで **[次へ]** をクリックし、**[構成オプション]** タブに進みます。
9. (オプション) **[構成オプション]** タブで、割り当てを直ちに有効化しない場合は **[割り当てオブジェクトの有効化]** チェックボックスを外します。[割り当ておよび調整] ペインを使用して、後で割り当てを有効化できます。
10. **[完了]** をクリックします。

注: HANA サービス検出アスペクトをデプロイした後、「割り当ておよびデプロイメント ジョブを作成しました」で始まるメッセージが表示されます。**[管理]** > **[オペレーション管理]** > **[モニタリング]** > **[デプロイメント ジョブ]** を選択し、デプロイメント ジョブのステータスを確認します。

タスク3: 検出の確認

HANA サービス検出アスペクトをデプロイした後、トップビューに CI が表示されていることを確認する必要があります。

トップビューの CI を表示するには、次の手順を実行します。

1. BSM コンソールで **[MyBSM]** をクリックします。
2. ドロップダウンリストから **[トップビュー]** を選択します。[トップビュー] ページが表示されます。
3. [トップビュー] ページで、**HANA_Topology** ビューを選択します。トップビューに CI が表示されています。

タスク 4: HANA 管理テンプレートまたは HANA アスペクトのデプロイ

Monitoring Automation for Composite Applications ライセンスを使用している場合、HANA 管理テンプレートまたは HANA アスペクトをリモート管理対象ノードにデプロイできます。HANA 管理テンプレートのデプロイの詳細は、「[タスク 4a: HANA 管理テンプレートのデプロイ](#)」を参照してください。HANA アスペクトのデプロイの詳細は、「[タスク 4b: HANA アスペクトのデプロイ](#)」を参照してください。

Monitoring Automation for Servers ライセンスを使用している場合、HANA アスペクトをデプロイできます。HANA アスペクトのデプロイの詳細は、「[タスク 4b: HANA アスペクトのデプロイ](#)」を参照してください。

タスク 4a: HANA 管理テンプレートのデプロイ

CI が SiteScope や DDM などの他のソースによって既に設定されていても、HANA サービス検出アスペクトのデプロイは必要です。詳細については、「[タスク 2: HANA サービス検出アスペクトのデプロイ](#)」を参照してください。


HANA 管理テンプレートをデプロイするには、次の手順を実行します。

1. [管理テンプレートおよびアスペクト] ペインを開きます。

[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [管理テンプレートおよびアスペクト]

2. [構成フォルダ] ペインで、次を選択します。


[構成フォルダ] > [データベース管理] > [SAP HANA] > [管理テンプレート]

3. [HANA 管理テンプレート] フォルダで、デプロイする管理テンプレートを選択し、 をクリックします。
[割り当てとデプロイ] ウィザードが開きます。


4. [構成アイテム] タブで、管理テンプレートを割り当てる検出済み HANA システムを選択し、[次へ] をクリックして [必要なパラメータ] タブに進みます。

注: 必要なパラメータの値は HANA サービス検出アスペクトのデプロイの際に既に指定されているため、ここで指定する必要はありません。

5. [次へ] をクリックして [すべてのパラメータ] タブに進みます。

注: [すべてのパラメータ] タブでは、パラメータのデフォルト値を上書きできます。各パラメータの値は、管理テンプレートレベルで指定できます。デフォルトでは、エキスパートパラメータとして定義されているパラメータは表示されません。エキスパートパラメータを表示するには、 [エキスパートパラメータの表示] をクリックします。


6. (オプション) [すべてのパラメータ] タブで [SAP HANA データベース SID] パラメータを選択し、 をクリックします。[インスタンスパラメータの編集: SAP HANA データベース SID] ウィンドウが開きます。

7. (オプション) [依存値] ペインで値を編集するには、次の手順を実行します。
 - a. パラメータを選択し、 をクリックします。たとえば、**サービスステータスの頻度** を選択できます。
[インスタンスパラメータの編集: サービスステータスの頻度] ウィンドウが開きます。
 - b. **[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。
 - c. **[OK]** をクリックします。
8. **[すべてのパラメータ]** タブで **[次へ]** をクリックし、**[構成オプション]** タブに進みます。
9. オプション) **[構成オプション]** タブで、割り当てを直ちに有効化しない場合は **[割り当てオブジェクトの有効化]** チェックボックスを外します。[割り当ておよび調整] ペインを使用して、後で割り当てを有効化できます。
10. **[完了]** をクリックします。

タスク 4b: HANA アスペクトのデプロイ

CI が SiteScope や DDM などの他のソースによって既に設定されていても、HANA サービス検出アスペクトのデプロイは必要です。詳細については、「[タスク 2: HANA サービス検出アスペクトのデプロイ](#)」を参照してください。


HANA アスペクトをリモート管理対象ノードにデプロイするには、次の手順を実行します。



1. [管理テンプレートおよびアスペクト] ペインを開きます。
[管理] > [オペレーション管理] > [モニタリング] > [管理テンプレートおよびアスペクト]
2. [構成フォルダ] ペインで、次を選択します。
[構成フォルダ] > [データベース管理] > [SAP HANA] > [アスペクト]
3. [管理テンプレートおよびアスペクト] ペインで、デプロイする HANA アスペクトをクリックし、 をクリックします。[割り当てとデプロイ] ウィザードが開きます。
4. **[構成アイテム]** タブでアスペクトを割り当てるリモート管理対象ノード CI をクリックし、**[次へ]** をクリックして **[必要なパラメータ]** に進みます。

注: リモート管理対象ノードを表示するには、**[タイプノードの CI も表示する]** チェックボックスを選択します。

5. **[すべてのパラメータ]** タブで [SAP HANA データベース SID] を更新します。
6. **[次へ]** をクリックして **[すべてのパラメータ]** タブに進みます。

注: **[すべてのパラメータ]** タブでは、パラメータのデフォルト値を上書きできます。各パラメータの値

は、アスペクト レベルで指定できます。デフォルトでは、エキスパート パラメータとして定義されているパラメータは表示されません。エキスパート パラメータを表示するには、 **[エキスパート パラメータの表示]** をクリックします。

7. **[すべてのパラメータ]** タブで **[SAP HANA データベース SID]** パラメータを選択し、 をクリックします。
[インスタンスパラメータの編集: SAP HANA データベース SID] ウィンドウが開きます。
8. (オプション) [依存値] ペインで値を編集するには、次の手順を実行します。
 - a. パラメータを選択し、 をクリックします。たとえば、**サービスステータスの頻度** を選択できます。
[インスタンスパラメータの編集: サービスステータスの頻度] ウィンドウが開きます。
 - b. **[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。
 - c. **[OK]** をクリックします。
9. **[次へ]** をクリックして **[構成オプション]** タブに進みます。
10. (オプション) **[構成オプション]** タブで、割り当てを直ちに有効化しない場合は **[割り当てオブジェクトの有効化]** チェックボックスを外します。[割り当ておよび調整] ペインを使用して、後で割り当てを有効化できます。
11. **[完了]** をクリックします。


OMi コンソールでの作業の開始


ここでは、OMi MP for SAP HANA を使用して SAP HANA データベースを監視する手順を詳しく説明します。

タスク 1: OMi コンソールへのリモート 管理対象ノードの追加

注: OMi MP for SAP HANA では、リモート監視を通じて SAP HANA データベースを監視します。リモート管理対象ノードとは、SAP HANA データベースを監視するために構成と OMi への追加が必要な、HANA システムの外部のノードです。

監視を始める前に、OMi コンソールにリモート管理対象ノードを追加する必要があります。



1. [管理] からモニタされるノードを開きます。
[管理] > [セットアップと保守] > [モニタ対象ノード]
2. [ノードビュー] ペインで **[事前定義済みのノード フィルタ] > [モニタ対象ノード]** をクリックし、 をクリックしてから、**[Computer] > [Windows]** または **[UNIX]** をクリックします。[モニタ対象ノードの新規作成] ダイアログボックスが表示されます。

3. ノードの [プライマリ DNS 名]、[IP アドレス]、[オペレーティングシステム]、[プロセッサアーキテクチャ]、およびノードの説明を指定します。リストにない IP アドレスを含めたい場合は、新しい IP アドレスを追加できます。
 - a. [IP アドレス] ツールバーで  をクリックします。[新しい IP アドレスの作成] ダイアログボックスが開きます。
 - b. IP アドレスとルーティングドメインを入力します。
 - c. IP アドレスが DHCP サーバによって割り当てられている場合は、**[DHCP]** チェックボックスを選択します。
 - d. **[OK]** をクリックします。
4. [モニタ対象ノード] ダイアログボックスで **[OK]** をクリックします。
新しく作成されたノードは、ランタイム サービス モデル (RTSM) の構成アイテム (CI) インスタンスになります。

注: HP Operations Agent が稼働するリモート管理対象ノードは、OMi サーバに対して有効にしてから、証明書を付与する必要があります。


タスク 2: HANA サービス検出アスペクトのデプロイ




環境内の SAP HANA データベースを検出するには、次の手順に従ってリモート管理対象ノードに HANA サービス検出アスペクトをデプロイします。

1. 次の手順で [管理テンプレートおよびアスペクト] ペインを開きます。
[管理] > [監視] > [管理テンプレートおよびアスペクト]
2. [構成フォルダ] ペインで、次を選択します。
[構成フォルダ] > [データベース管理] > [SAP HANA] > [アスペクト]
3. [HANA アスペクト] フォルダでデプロイする **[HANA サービス検出]** アスペクトをクリックし、 をクリックします。[割り当てとデプロイ] ウィザードが開きます。
4. **[構成アイテム]** タブが開いたら、remote managed node CI をクリックして **[次へ]** をクリックし、**[必要なパラメータ]** に進みます。
5. **[必要なパラメータ]** タブで、必須パラメータを指定する必要があります。必須パラメータのデフォルト値を指定するには、次の手順を実行します。
 - a. リストの **[HANA システムに接続するための JDBC URL]** インスタンスパラメータを選択して、 をクリックします。[パラメータの編集: HANA システムに接続するための JDBC URL] ダイアログボックスが開きます。


たとえば、次の URL を指定できます。

```
jdbc:sap://hanavm1.ind.hp.com:31015;hanavm1:31015?reconnect=true&timeout=0
```

- b. 値を指定して、**[OK]** をクリックします。
 - c. リストの **[HANA に接続するための HANA JDBC ドライバを含むディレクトリ]** パラメータを選択して、 をクリックします。[パラメータの編集: HANA システムに接続するためのユーザ名] ダイアログボックスが開きます。

たとえば、Windows のリモート管理対象ノードの ngdbc.jar を含むディレクトリを C:/HANA/driver と指定できます。
 - d. **[値]** を選択して値を指定し、**[OK]** をクリックします。
 - e. リストの **[HANA システムに接続するためのユーザ名]** パラメータを選択して、 をクリックします。[パラメータの編集: HANA システムに接続するためのユーザ名] ダイアログボックスが開きます。
 - f. **[値]** を選択して値を指定し、**[OK]** をクリックします。
 - g. リストの **[HANA システムに接続するためのパスワード]** パラメータを選択して、 をクリックします。[パラメータの編集: HANA システムに接続するためのパスワード] ダイアログボックスが開きます。
 - h. **[値]** を選択して値を指定し、**[OK]** をクリックします。
6. **[パラメータ サマリ]** タブで、**[HANA システムに接続するための JDBC URL]** パラメータを選択し  をクリックします。[インスタンスパラメータの編集: SAP HANA データベース SID] ウィンドウが開きます。

注: SSL 構成の場合、[暗号化] パラメータの値の指定が必要です。SSL 暗号化を有効にするには、値を true に設定する必要があります。また、SSL に関連する他のパラメータの値も指定が必要です。

7. [依存値] ペインで値を編集および変更するには、次の手順を実行します。
 - a. パラメータを選択し、 をクリックします。たとえば、JAVA インストールディレクトリを選択できます。[パラメータの編集: JAVA インストールディレクトリ] ウィンドウが開きます。
 - b. **[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。
 - c. **[OK]** をクリックします。
8. **[パラメータ サマリ]** タブで **[次へ]** をクリックし、**[構成オプション]** タブに進みます。
9. (オプション) **[構成オプション]** タブで、割り当てを直ちに有効化しない場合は **[割り当ての有効化]** チェックボックスを外します。[割り当ておよび調整] ペインを使用して、後で割り当てを有効化できます。
10. **[完了]** をクリックします。

注: HANA サービス検出アスペクトをデプロイした後、「割り当ておよびデプロイメント ジョブを作成しました」で始まるメッセージが表示されます。デプロイメント ジョブのステータスを確認するには、**[管理]** > **[監視]** > **[デプロイメント ジョブ]** を選択します。

タスク3: 検出の確認

HANA サービス検出アスペクトをデプロイした後、[360° View] に CI が表示されていることを確認する必要があります。

[360° View] に CI を表示するには、次の手順を実行します。

1. OMi コンソールで、**[ワークスペース]** > **[ダッシュボード]** > **[360° View]** をクリックします。
2. [360° View] で、**HANA_Topology** ビューを選択します。[360° View] に CI が表示されています。

タスク4: HANA 管理テンプレートまたはHANA アスペクトのデプロイ

Monitoring Automation for Composite Applications ライセンスを使用している場合、HANA 管理テンプレートまたは HANA アスペクトをリモート管理対象ノードにデプロイできます。HANA 管理テンプレートのデプロイの詳細は、「[タスク 4a: HANA 管理テンプレートのデプロイ](#)」を参照してください。HANA アスペクトのデプロイの詳細は、「[タスク 4b: HANA アスペクトのデプロイ](#)」を参照してください。

Monitoring Automation for Servers ライセンスを使用している場合、HANA アスペクトをデプロイできます。HANA アスペクトのデプロイの詳細は、「[タスク 4b: HANA アスペクトのデプロイ](#)」を参照してください。

タスク 4a: HANA 管理テンプレートのデプロイ

CI が SiteScope や DDM などの他のソースによって既に設定されていても、HANA サービス検出アスペクトのデプロイは必要です。詳細については、「[タスク 2: HANA サービス検出アスペクトのデプロイ](#)」を参照してください。


HANA 管理テンプレートをデプロイするには、次の手順を実行します。

1. [管理テンプレートおよびアスペクト] ペインを開きます。

[管理] > **[監視]** > **[管理テンプレートおよびアスペクト]**


2. [構成フォルダ] ペインで、次を選択します。



[構成フォルダ] > **[データベース管理]** > **[SAP HANA]** > **[管理テンプレート]**

3. [HANA 管理テンプレート] フォルダで、デプロイする管理テンプレートを選択し、 をクリックします。**[割り当てとデプロイ]** ウィザードが開きます。
4. **[構成アイテム]** タブで、管理テンプレートを割り当てる検出済み HANA システムを選択し、**[次へ]** をクリックして **[必要なパラメータ]** タブに進みます。

注: 必要なパラメータの値は HANA サービス検出アスペクトのデプロイの際に既に指定されているため、ここで指定する必要はありません。

5. **[次へ]** をクリックして **[パラメータ サマリ]** タブに進みます。

注: **[パラメータ サマリ]** タブでは、パラメータのデフォルト値を上書きできます。各パラメータの値は、管理テンプレートレベルで指定できます。デフォルトでは、エキスパートパラメータとして定義されているパラメータは表示されません。エキスパートパラメータを表示するには、 **[エキスパートパラメータの表示]** をクリックします。

6. (オプション) **[パラメータ サマリ]** タブで **[SAP HANA データベース SID]** パラメータを選択し、 をクリックします。[インスタンスパラメータの編集: SAP HANA データベース SID] ウィンドウが開きます。
7. (オプション) [依存値] ペインで値を編集するには、次の手順を実行します。
 - a. パラメータを選択し、 をクリックします。たとえば、**サービスステータスの頻度** を選択できます。[インスタンスパラメータの編集: サービスステータスの頻度] ウィンドウが開きます。
 - b. **[値]** をクリックして値を指定し、**[OK]** をクリックします。
 - c. **[OK]** をクリックします。
8. **[パラメータ サマリ]** タブで **[次へ]** をクリックし、**[構成オプション]** タブに進みます。
9. (オプション) **[構成オプション]** タブで、割り当てを直ちに有効化しない場合は **[割り当ての有効化]** チェックボックスを外します。[割り当ておよび調整] ペインを使用して、後で割り当てを有効化できます。
10. **[完了]** をクリックします。

タスク 4b: HANA アスペクトのデプロイ

CI が SiteScope や DDM などの他のソースによって既に設定されていても、HANA サービス検出アスペクトのデプロイは必要です。詳細については、「[タスク 2: HANA サービス検出アスペクトのデプロイ](#)」を参照してください。


HANA アスペクトをリモート管理対象ノードにデプロイするには、次の手順を実行します。

1. [管理テンプレートおよびアスペクト] ペインを開きます。

[管理] > [監視] > [管理テンプレートおよびアスペクト]


2. [構成フォルダ] ペインで、次を選択します。



[構成フォルダ] > [データベース管理] > [SAP HANA] > [アスペクト]

3. [管理テンプレートおよびアスペクト] ペインでデプロイする HANA アスペクトをクリックし、 をクリックします。[割り当てとデプロイ] ウィザードが開きます。
4. [構成アイテム] タブでアスペクトを割り当てるリモート管理対象ノード CI をクリックし、[次へ] をクリックして [必要なパラメータ] に進みます。

注: リモート管理対象ノードを表示するには、[タイプノードの CI も表示する] チェックボックスを選択します。

5. [すべてのパラメータ] タブで [SAP HANA データベース SID] を更新します。
6. [次へ] をクリックして [パラメータ サマリ] タブに進みます。

注: [パラメータ サマリ] タブでは、パラメータのデフォルト値を上書きできます。各パラメータの値は、アスペクトレベルで指定できます。デフォルトでは、エキスパートパラメータとして定義されているパラメータは表示されません。エキスパートパラメータを表示するには、 [エキスパートパラメータの表示] をクリックします。

7. [パラメータ サマリ] タブで [SAP HANA データベース SID] パラメータを選択し、 をクリックします。[インスタンスパラメータの編集: SAP HANA データベース SID] ウィンドウが開きます。
8. (オプション) [依存値] ペインで値を編集するには、次の手順を実行します。
 - a. パラメータを選択し、 をクリックします。たとえば、**サービスステータスの頻度** を選択できます。[インスタンスパラメータの編集: サービスステータスの頻度] ウィンドウが開きます。
 - b. [値] をクリックして値を指定し、[OK] をクリックします。
 - c. [OK] をクリックします。
9. [次へ] をクリックして [構成オプション] タブに進みます。
10. (オプション) [構成オプション] タブで、割り当てを直ちに有効化しない場合は [割り当ての有効化] チェックボックスを外します。[割り当ておよび調整] ペインを使用して、後で割り当てを有効化できます。
11. [完了] をクリックします。

ドキュメントのフィードバックを送信

本ドキュメントについてのご意見、ご感想については、電子メールでドキュメント制作チームまでご連絡ください。このシステムで電子メールクライアントが設定されていれば、このリンクをクリックすることで、以下の情報が件名に記入された電子メールウィンドウが開きます。

Feedback on インストールガイド (OMi Management Pack for SAP HANA 1.00)

本文にご意見、ご感想を記入の上、[送信]をクリックしてください。

電子メールクライアントが利用できない場合は、上記の情報をコピーしてWebメールクライアントの新規メッセージに貼り付け、docfeedback@hp.com宛にお送りください。

お客様からのご意見、ご感想をお待ちしています。

